

胃がんリスク検診(ABC 検診)

胃がんリスク検診(ABC 検診)とは、ピロリ菌感染の有無を調べる検査(血液中の血清ピロリ菌抗体を測定)と萎縮性胃炎の有無を調べる検査(血液中の血清ペプシノゲン値を測定)を組み合わせて、胃がんになりやすい状態かどうかをリスク(危険度)分類する検査です(表1)。「がんを見つける検査」ではありません。

胃がんにはピロリ菌感染が深くかかっています。ピロリ菌感染のない人から胃がんが発生することはごくまれです。また、ピロリ菌感染によって胃粘膜の萎縮が進むほど、胃がんが発生しやすくなります。検査は血液検査で手軽に調べることができます。

表1 胃がんリスク検診(ABC検診)

ABC分類	A群	B群	C群	D群
血清 ピロリ菌	—	+	+	—
血清 ペプシノゲン値	—	—	+	+
胃がんの危険度	低			高
胃の健康度	健康な胃粘膜。胃粘膜萎縮の可能性は非常に低い。	胃潰瘍に注意。少数ながら胃がんの可能性も。胃粘膜の萎縮がない、または軽い。	慢性萎縮性胃炎。胃粘膜萎縮が進んでいる。	胃がんの可能性。胃粘膜萎縮が進み過ぎ、ピロリ菌が胃に住めずに退却。
その後の管理・対処法	管理対象から除外。	必ずピロリ菌除菌。除菌前後に画像検査。	ピロリ菌除菌の徹底。定期的の内視鏡検査。	毎年の内視鏡検査。
年間の胃がん発生頻度	ほぼゼロ	1000人に1人	500人に1人	80人に1人
判定後2次精密画像検査(間隔)	不要※	必要(3年以内)	必要(2年以内)	必要(毎年)
ピロリ菌除菌	不要	必要	必要	必要

※自覚症状のある人、また過去5年以内に精密画像検査を受けていない人は必要。(2012)

D群は過去にピロリ菌感染があった群と説明されますが、実際には感染が持続しているにもかかわらず、抗体が低下しているためにピロリ陰性と判定される場合があります。D群でも呼気のテストや便中の抗原で陽性が確認されれば、除菌の対象になります。

ピロリ菌感染陽性、またはD群の人は、胃がんがないかどうかを確かめるために精密検査(内視鏡検査など)が必要です。胃がん検診は、従来のX線を使ってのバリウム検診から、血液検査ですむ胃がんリスク検診(ABC 検診)に移り変わってきました。

胃がんを予防するためにピロリ菌の除菌が重要な時代になっています。



胃がんリスク検診(ABC 検診)を受けるには・・・

平成25年度 安中市での胃がんリスク検診(ABC 検診)の対象者は、40、45、50、55、60、65、70歳の方です。節目にあたる方はぜひ検診を受けましょう。特定健診と一緒にこなうこともできますので、ご相談ください。当院でもABC 検診を行っています。